

平成13年度 第2次試験 【事例】

与件を活用した解答例

第1問(配点40点)

(設問1)

	(a)	(b)	(c)	(d)
1 利益率	売上高対経常利益率	経常利益 ÷ 売上高 × 100	3.2%	2.3%
	売上高対総利益率	売上総利益 ÷ 売上高 × 100	20.2%	18.2%
2 回転率	総資本回転率	売上高 ÷ 総資本	1.86回	1.50回
	売上債権回転率	売上高 ÷ 売上債権	3.75回	2.36回
3 安全性	自己資本比率	自己資本 ÷ 総資本 × 100	17.5%	13.8%
	流動比率	流動資産 ÷ 流動負債 × 100	110.8%	110.5%

(設問2)

D社の経営状況は良くない。利益率は売上原価と営業外費用の増加で収益性が低下し、回転率は売上債権の大幅な増加で資産効率が悪化し、安全性は売上債権の増加を短期借入金で賄ったため短期支払い能力が低下している。

第2問(配点30点)

(設問1)

A 営業活動キャッシュフロー

(a) 項目	(b) 金額
税引前当期利益	+200
減価償却費	+5
営業外収益	-49
営業外費用	+216
特別利益	-26
売上債権の増加額	-1,496
商品の増加額	-120
仕入債務の増加額	+48
小計	-1,222
営業外損益	-167
特別利益	+26
法人税の支払額	-100
合計	-1,463

B 投資活動キャッシュフロー

(a) 項目	(b) 金額
投資有価証券の取得による支出	-12
その他固定資産取得による支出	-33
合計	-45

C 財務活動キャッシュフロー

(a) 項目	(b) 金額
短期借入金の増加	+1,405
長期借入金の増加	+83
合計	+1488

(設問2)

キャッシュフローはマイナスの状況である。理由は、売上債権の大幅な増加に伴う営業活動でのマイナスや、投資活動での固定資産の取得によるマイナスを、財務活動での借入金により賄いきれなかったためである。

第3問(配点20点)

(設問1)

(a) 売上高から売上原価と変動費を差し引いた限界利益を求め、限界利益の売上高に対する比率である限界利益率を分析すべきである。

(b) 商品の採算性は、メガネ用ガラスが最も高く、半導体用研磨剤が最も低い分析結果といえる。

(設問2)

D社は、大幅に増えつつある取引先のニーズに対応していく視点や商品別の売上構成比や限界利益率のデータに基づいて、採算性の高いメガネ用ガラスやメガネ用研磨剤中心の商品構成へ見直すよう検討していくべきである。

第4問(配点10点)

(a) 経理、在庫、取引先の管理を総合的に行えるパッケージソフトを用いる方法が考えられる。

(b) 留意点は、販売先の管理を強化し売上債権を適正化させ、資産効率向上とキャッシュフロー改善を図れるように再構築することである。